

## メッセージアウトライン

### ガラテヤ 6：6~10「善を行う」

「みことばを教えられる人は、教える人とすべての良いものを分け合いなさい」  
(6) 「みことばを教えられる人」とは教会員、「教える人」とは伝道者、説教者、牧師であろう。ここではみことばを教えられる人が、教える人とともにすべての「良いもの」を分け合うことが勧められている。この場合の「良いもの」とは物質的なものを意味している。 ⅴ ⅴ 16:25 参照 すなわちこの教えは、全生活を主の働きのためにささげ、みことばを教えることに専念している人々に対して、心から経済的、物質的支援をきなさいということを行っているのである。 ⅴ-ⅴ 15:25~27 参照

みことばを教える人は良いもの、つまりみことばを信徒に教え分かつ。信徒はそれに対して物質的な良いものをもって分かち合うのである。こうして愛の共同体としての教会がこの世に建てられ、実を結んでいく。ところがガラテヤの教会においては、必ずしも十分にこのことがなされていなかったようである。それでパウロはかなり厳しいことばで警告する。

「思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません」(7)  
これはみことばを教えられる立場にあったガラテヤ教会の人々が、教える立場にある伝道者、牧師たちに対して十分な経済的援助をしていないことを指して、それはとりもなおさず神を侮っていることにほかならない。しかし神は侮られるお方ではないと言っているのである。どんなにすばらしい真理をクリスチャンたちが語っていても、その真理のみことばを宣べ伝えるために自分の全生活を主にささげきった伝道者たちを粗末にしているならば、この世の人々はどのようにしてその真理のみことばの価値を知り、理解できるだろうか。もちろんみことばを教える者も、そのみことばの真理に生きなければならないことは言うまでもない。

「人は種を蒔けば、その刈り取りをすることになります」とはそのような文脈で語られている。自分の生まれながらの肉の性質に従って自己中心的、肉欲的に生き、みことばを語る者に援助を惜しみ、自分の肉を喜ばせようとすることに時間やお金を費やす者は、自分の肉のために種を蒔いているのであり、やがて肉から滅びを刈り取ることになる。しかし、みことばに聞き従い、その教えに対する真実の応答として経済的、物質的支援を惜しまず、福音の前進、教会の成長のために奉仕し、それぞれの役割を果たしていく人々は御霊のために蒔いているのであり、御霊から永遠のいのちを刈り取ることになる。

「善を行なうことに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取ることになります」(9) ここでの「善を行なう」とは文脈から考えて、みことばを教える人を始め、貧しい人、病んでいる人、苦しんでいる人たちに対する経済的、物質的援助を指している。そうすれば時期が来て豊かな刈り取りをすることになるのである。それでパウロは「機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに対して善を行ないましょう」(10)と勧めている。

私たちも今日教えられたみことばを実行する者となろう。